

## 普及活動情勢報告（平成 31 年 1 月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

### 農業の魅力について発信～指導農業士が出前授業～



12月17日、新規就農への意欲喚起を目的として、指導農業士が高知農業高校1年生39名を対象に授業を行いました。農業改良普及課は、教室での講義、先進農家の栽培ほ場や次世代型ハウスでの現地研修を企画・支援しました。生徒からは「就農前に多くの体験をすることの楽しさや大切さが理解できた」、「天敵昆虫が非常に小さいのに驚いた」、「高所作業台で施設の高さが実感できた」など感想が寄せられました。また、授業後のアンケート調査では、「将来、農業に就いてみたい」などの回答数が増えるなど、農業に対するイメージが向上しました。

農業改良普及課は、今後も新規就農者の確保・育成に向けた取り組みを続けます。

### ニラの日慣らし会でGAPを推進



12月19日に、JA土佐香美ニラ部会は、野市出荷場および土佐山田出荷場で日慣らし会を開催し、合計32名が参加しました。

JAからは、病虫害防除対策や実例を示しながら等級を厳守するように説明しました。農業改良普及課からは、アザミウマ類の発生予察状況と防除対策、また前回実施した生産者GAPアンケートのとりまとめ結果を報告するとともに、今回もGAPアンケートを実施しました。生産者からは、「等級の見分け方のポイント」についての質問や意見交換がなされ、「収穫ニラの衛生管理に努めたい」等の声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も日慣らし会等で、ニラの衛生管理の向上と異物混入防止等のGAP指導に取り組めます。

### ～ユズ優良系統の早期普及に向けて～ 優良系統成績検討会への参加



1月18日、果樹試験場でユズ優良系統成績検討会が開催され、JA高知県香美地区柚子生産部会の生産者2名が参加しました。

この優良系統については、これまで農業改良普及課が香美市物部町に現地試験ほを設置し、関係者と協力して樹体と果実の特性を調査してきました。

成績検討会では、生産者から収量性や果実の大きさ等について活発な質問がされ、関心の高さがうかがえました。

農業改良普及課は今後も、関係機関や部会と連携し、優良系統の早期普及に向けた体制作りを支援します。

### 先行集落の取り組みを学ぶ ～南国市稲生集落 集落営農視察研修～



1月15日、稲生集落の集落営農志向者など関係機関を含めて14名が「物部集落営農組合」を視察しました。

視察先から、これまでの活動概要等について説明があり、農業改良普及課からは、設立の経過等について補足説明を行いました。

参加者から、具体的な運営方法や飼料用米のメリット等について質問があったり、米の販路の情報交換等もされていました。

視察終了後のアンケートでは、集落営農を前向きに考えていきたいとの回答が多く、必要性等の理解が深まりました。

引き続き話し合いの場へ参加し、関係機関とともに集落営農を推進していきます。

### 香美地区のピーマン部会が現地検討会を開催



1月7日、香美地区のピーマン部会が現地検討会を開催し、生産者13名が参加しました。

農業改良普及課からは、現地ほ場の栽培概要や新たな仕立て・整枝方法の実証ほの状況について説明しました。

生産者からは「今後の樹姿がどうなるか気になる」「新しい仕立て方法は難しくないか」等、活発な意見交換が行われました。また、特別に参加した長岡の部会長は刺激を受け、「自身の部会を活性させるために、今回の現地検討会の手法を取り入れたい」と言われていました。

農業改良普及課では、現地検討会や栽培講習会等により生産者の技術向上や部会を越えた交流により産地の活性化を図っていきます。

### 土佐甘とう部会が現地検討会を開催



1月21日、南国市で土佐甘とう部会が現地検討会を開催し、12名が参加しました。

農業改良普及課からは、整枝方法やかん水管理、病害虫対策等について説明しました。

生産者からは「肥料について教えてほしい」「指導の整枝方法がとれるなら、やってみようか」「天敵、薬剤の防除体系を作って欲しい」等の意見が聞かれました。

農業改良普及課では、現地検討会や交流会等により甘長トウガラシの収量・品質向上を図っていきます。